

ジャンルー・シーフ写真展

ジャンルー・シーフ逝って10年、未発表作品公開と珠玉の名作も展示

UNSEEN & Best works

主催・運営新聞社
共催・東京都写真美術館
後援・在日フランス大使館、(社)日本写真協会、(社)日本写真家協会、(社)日本写真家協会
サンケイスポーツ、夕刊フジ、フナンケイ・スハイ・イザイ SANKEI EXPRESS
協賛・株)JTF、(株)ワコマイ・シング・シャパン
ギャンブル・カーティング・シャパン(株)、ウイーナス・ショール(株)
協力・The Estate of Jeanloup Sieff
会場・G.I.P.Tokyo

2010年
3月27日(土)～
5月16日(日)

東京都写真美術館 地下1階展示室
開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで)
入館は閉館の30分前まで
休館日 毎週月曜日(但し、月曜日が祝日または振替休日の場合は翌日)
4月29日～5月9日のGW期間は休業
観覧料 一般800(640)円 学生700(560)円
中高生65歳以上600(480)円
()内は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員
小学生以下および障害手帳をお持ちの方とその介護者は無料
65歳以上の方は第3水曜日無料

Tokyo Metropolitan Museum of Photography

東京都写真美術館

ジャンルー・シーフ写真展

UNSEEN & Best works

現役で活動中だったジャンルー・シーフの突然の訃報から10年、夫人のパル・バタ(写真家でもありシーフのモデルも経験)を中心に未発表作品の見直しが行われました。何故未発表だったのか、後に発表する筈だったのか、選定は作家の領域にどこまで踏み込めるのか、コンタクトシートやシーフのこだわったプリント表現など知られざる作品の興味はつきないでしょう。これらの作品は作家と共に歩んだ名プリンター、オズ・プレガンにより伝説の暗室で蘇りました。ゼラチン・シルバープリントの銀塩粒子、パライタ印画紙の微妙なトーンによる力強く格調高いシーフスタイルの表現は、まさにモノクロ写真芸術です。そこには1950年代後半青年シーフのマグナム所属時期に実力を見せたル・ポルタージュや1960年代前半のニューヨーク時代の『ハーパース・バザー』での仕事が多く見られます。この時期はシーフのもっとも活力に満ちたパワーアップ期にあたります。シーフ固有の力強い垂直画面と広角レンズの巧みな表現は変わらず、カメラもクラシックライカと伝統のニコン、ハッセルブラッドの3機のみの使用でした。

シーフは常に反骨の精神を掲げ、最後まで自らを律し、それは彼の樹型や表現の厳格さに現れています。しかし、その反面シーフはワインを愛し、気の利いた駄洒落を飛ばし相手を煙にまいては楽しめ、また一方で写真は、"失われた時を求めて"いく、ノスタルジアの感傷を生涯抱いていました。1973年の日本における初めての個展以来今日に至るまで、日本での展覧会は15回以上開催されました。いつも好評を得てきたのは、日本の根強いシーフファンの存在と、時代が経過しても何ら古臭さを感じない作品の魅力によるものといえるでしょう。本展は未発表作品を集大成したのですが、他に名作コーナーを設け人々の記憶に残る珠玉の代表作を加えて構成しています。

Jeanloup Sieff

ジャンルー・シーフ
Jeanloup Sieff
(1933-2000)
ポルタージュ得意としていたが1960年代ニューヨークに滞在し『ハーパース・バザー』『ウォーカー・エスクアリノ・ヴァ』など世界的なファッション雑誌でパリとニューヨークを往復しながら華やかに活躍。70年代、80年代はヌードなどパーソナルな作品や広告、ポートレイトにジャンルを広げた。モノクロ写真に数々の名作を残し、最も傑出した作品にも傑作が多い。フランス国家映画研究所賞とパリ市芸術家顕彰。文部省にもうけ出版物には必ず自身の長文テキストを記している。2000年9月急逝。写真展はパリ市立近代美術館(1986)のほかに日本を含む各国で開催。代表的な出版物に自伝的大写真集「ジャンルー・シーフ 1950-1990」や『ヌード・ル・ターニー』『デリュール』がある。遺族によって未発表作品が纏められ2007年ティッシュランで写真展とシカゴ・ミル社の出版物『レ・ザンディスクロット』で公開された。

東京都写真美術館
地下1階展示室
TEL: 03-3280-0099
www.yabu.com
JR東海道新幹線改札より徒歩7分
京浜メトロ日比谷線東京駅より徒歩10分
当館には専用の駐車場はございません。
お車でご来館の際は
近隣の有料駐車場をご利用ください。

◆カフェトーク“ジャンルー・シーフ”
ゲスト: ノービー・山口
日時: 2010年4月18日(日) 午後4時～5時 東京都写真美術館2F カフェ “シャンブル・ブルー”
5時～5時30分 料金会場に移動しトークを続けます。定員: 35名、参加費: 1000円(税抜)とLPリント代込み
申し込み方法: 当日10時より会場内1階カウンターにて受付開始します。先着順。